自然科学書協会 60 年史

（50 年史追録版）

1997－2006

社団法人　自然科学書協会

［本扉］自然科学書協会マークについて

マークを作ろうというのは昭和 23 年 3 月頃でした。その頃目録を作るのにマークが必要だということになって NSPA の頭文字と世界に知識を求めるということから地球を使ってということで、雑誌平凡の挿絵を描いている私の甥の古川龍三に図案化を頼んだものがこのマークで、出来上がったものは割合好評で皆さんに親しまれてきました（八木佐吉氏談「自然科学書協会 20 年の歩み」より）。

自然科学書協会 60 年史　目次

理事長挨拶 ……5
著作権問題への取り組み ……6
再販問題への取り組み ……8

50 周年以後の行事について ……11

資料
役員就任推移 ……24
平成 18 年度役員 ……26
代表者変更 ……26

現在の会員名簿 ……27

ご　挨　拶

社団法人 自然科学書協会 理事長
志　村　幸　雄

社団法人 自然科学書協会は、ここに創立60周年を迎えることになりました。これもひとえに関係各位のご指導、ご支援の賜物と心よりお礼申し上げます。

ご高承のように、当協会は第二次世界大戦直後の混乱した社会情勢の中で、科学技術発展の知的基盤となる出版事業を健全に立ち上げるため、理学、工学、医学、農学、家政学を中心とした専門書出版社が結集し、昭和21（1946）年11月に任意団体として発足したものです。その背景には、印刷用紙割当問題という戦後の混乱期ならではの特殊事情があったことは否めませんが、同時に資源小国の日本が生きる道は科学技術立国しかない、そのためには自然科学を基軸にした専門書が重要な役割を果たすという熱い思いがあったからに他なりません。それから間もなくの昭和26（1951）年、文部省（当時）の勧奨により、いち早く社団法人として認可を受け、以後、数ある出版団体の中でも最も歴史のある団体の一つとして活動を継続してきたゆえんです。60年という節目を迎えて、これらの発展に尽力された先輩各位ならびに関係官庁に改めて感謝の意を表する次第です。

私どもが歩んできた20世紀は「科学技術の世紀」と言われますが、当協会創立の年にデジタルコンピュータが発明され、さらにその翌年にトランジスタが誕生していることは、たいへん象徴的な出来事です。これらはいずれも米国生まれの技術ですが、技術パラダイムの変換、特に情報技術革命を促す大型技術として戦後日本の発展の原動力になってきたことも事実です。私どもの専門書がその発展の一端を担ってきたことは、たいへん意義深いことです。

21世紀を迎えた今日、日本の科学研究・技術開発は、キャッチアップ型研究開発からフロントランナー型研究開発への転換、環境・エネルギー問題への的確な対応を迫られ、日本発の成果を世界に向けて発信していくことが強く求められています。折から、「文字・活字文化振興法」が成立し、学術書出版振興の必要性と支援が謳われています。会員各社はそうした動きに積極的に対応するとともに、当協会としてもその環境づくりに鋭意注力していく所存です。

出版不況が長引く中で専門書業界を取り巻く環境は決して良好とは言えず、さまざまな課題が待ち受けています。当協会ではこれまで再販制度の維持や出版者の権利の拡大、なかんずく複写権問題に精力的に取り組んできましたが、これらの問題は今後にも引き継がれていくものです。さらに消費税引き上げ時における低減税率適用問題なども重要課題になるものと思われます。これらの課題は、専門書特有の商品特性と不可分の問題であり、願わくば専門書が存在感を発揮する出版文化の醸成、ひいては日本の科学技術の振興発展を促進できればと考えます。

私ども会員各社は今後とも専門書出版の一大グループとして、さらにより良い出版物の刊行を目指してたゆみない努力を続ける所存です。今後とも何卒一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

著作権問題への取り組み

出版者の権利法制化について

出版界の永年の問題である「出版者の権利法制化」に関して、出版界あげて、その検討を続けてきた。当協会も日本書籍出版協会並びに諸関係出版団体とともに、その実現に向けて努力しているが、いまだその結果は出ていない状況である。過去の検討結果を踏まえて、現在のその権利のあり方などについて今一度研究することも必要である。

複写問題について

大きな被害が出ている複写問題を解決するべく「日本複写権センター」（以後 JRRC）が発足した（1991年、1998年社団法人化）ことは、すでにご承知のことである。発足当時、当協会の会員各社が出版しているような学術専門書の複写は、JRRC が規定した1枚2円という価格では許諾することはできないとして、多くの会員社は特別許諾該当著作物（いわゆる「白抜きR」）と指定し、各社の指値による料金を登録した。しかし、その実効は上がらず、当協会は出版者著作権協議会（以後、出著協）（古岡・大坪会長を経て、現在金原会長）を通じて、新たな使用契約案を JRRC に提案、今後積極的に「白抜き R」の管理業務を推進するよう要請した。当時の JRRC の構成3団体（著団連・学著協・出著協）で精力的にその検討を行ったが、「白抜き R」の出版物を JRRC において積極的に取り扱うことは無理であるとして、その取り扱いを中止するという理事会決定がなされた（2000年12月）。

この動きに対して当協会は新たな著作権処理機構の設立に協力することとし、「日本著作出版権管理システム」（以後 JCLS）が設立された（2001年1月）。JCLS は JRRC の問題点を払拭するべく、そのシステムを各社の指値を基に許諾契約を進めている。2006年6月現在で、委託点数は、書籍 36,133 点、雑誌 2,599 点となっている。

この2つの著作権処理機構並びに学著協が運営する、「学術著作権協会」（以後 JAACC）の3機構が主たる著作権処理機構として現在存在している。しかし3つの著作権処理機構が鼎立していることは、利用者にとって不便な状況であることは間違いない。文化庁ならびに経団連その他の利用者団体からの要請もあり、3者はその一本化に向けて JRRC を中心に協議を続けているが、完全な一本化には、未だ問題点が多く存在している。この協議では指値制度の導入、利用者の業種別包括料金等を含め、JRRC の使用料規程の改訂問題が中心となっており、集中的に検討が行われている。まだ多くの問題点が解決されておらず、検討にはまだ時間がかかると思われるが、当協会はその実現に向けて、最大の努力を払わなければならない。

著作権法改訂問題について

2005年、文化庁文化審議会著作権分科会において、著作権の制限（具体的には、出版物から許諾などなしに複写できる範囲）の拡大が検討された。当協会は当然これに反対の意思を表明するとともに、協会会員各社のパブリックコメントなどを通じて協力を得つつ活動を行った。その詳細はすでにお知らせしてあるが、今なお文化庁文化審議会著作権分科会での審議が継続されている場面もある。特に薬事法に関して継続審議とされているが、その結果が当協会会員社に及ぼす影響は甚大となることは明白であることから、慎重に対処していかなければならない。

文化審議会著作権分科会における検討事項のうち、特に公共性の高い部分については今後補償金支払前提の権利制限も考えられ、許諾システムの簡便な運用も含めて、前述の3つの著作権処理機構の一本化の実現が必須であるとされている。複写利用者への便宜性の供与という義務が、我々の複写権という権利の行使には必要である。

以上のことは本来全ての出版物がどこかの著作権処理機構に委託されていることが必要である。未委託出版物の数の多さが審議の結果に影響を及ぼしかねない。審議の結果を見てから委託を進めることは、決して出版界にとって好ましいこととはいえない。

JRRC からの分配金に関して

2002 年、新聞著作権協議会が JRRC の構成団体として加入した。実態調査によって判明したが、新聞が複写される率は非常に大きく、その後の分配に大きな影響をもたらした。

当協会は出著協を通じて、JRRC より複写使用料の分配を受けているが、当協会ではこれを一旦各社に分配し、再び拠出していただき、当協会の著作権、特に複写問題の活動に充当した。すなわち東京国際ブックフェアにおいて、2002 年、2003 年の 2 回、特別ブースを設け、複写問題について PR を積極的に行い、読者各位・関係各位にその理解を深めてもらうよう努力を重ね、各出版関連団体からも評価を得た。アンケート調査も行い、その後の活動のデータとして活用した。

（及川）

再販問題への取り組み

著作物再販売価格維持制度（以後、再販制度と略す）の維持は、自然科学書協会の活動目標の中でも最重要課題の１つであり、過去10年間に限っても「税制・再販特別委員会」を基盤にその方針を貫くための活動を精力的に続けてきた。

再販制度の是非については立場の違いで見方が大きく異なるが、1990年後半に入って公正取引委員会が再販制度の見直しを打ち出し、出版４団体との間に「書籍・雑誌に関する再販対話」をスタートさせる中で、当協会でもこの問題に積極的に対応し、専門書出版者の立場から維持へ向けた活動を展開した。幸い、公取委は2001年３月、「著作物再販制度の取扱いについて」を公表し、「当面存置」の結論が導かれた。この方針は今後暫くは維持される見通しだが、同時に消費者利益を前提にした流通改善および弾力運用が求められ、これらにどう対応するかが課題になっている。

以下には、前記税制・再販特別委員会および再販対話（志村が参加）で俎上に上った、専門書の立場から見た再販問題を整理・再検証し、今後の活動の参考に供したい。

再販制度に対する基本姿勢

自然科学書協会の再販問題に対する基本姿勢は、過去２回にわたる廃止反対声明（1995年３月および同年11月）に端的に示されている。すなわち、当協会会員各社が刊行している自然科学系の専門書は、わが国における科学技術の継承・発展に少なからず寄与し、専門知識の伝播と普及に不可欠な存在になっている。しかし、この種の出版物は、総じて専門的、学術的な性格を備えたものが多く、そのため多品種で発行部数の少ないものを長期にわたって安定的に供給していくことが欠かせない。それには定価販売を維持し、価格競争の弊害からまぬがれ、常備寄託や長期委託制度を可能にする再販制度の仕組みが、どうしても必要と考えている。当協会がこの問題に関して一貫して、廃止反対、絶対維持を主張し続けてきたゆえんである。

ところで、1997年12月に行革委規制緩和小委員会がまとめた最終報告書には、著作物の再販制度を残すためには、経済政策的視点、なかんずく独禁法上の観点に立って、「相当特別な理由」が必要と述べられている。しかし、その理由の最たるものこそ、出版物、とりわけ専門書が内在している文化的、公共的特性ではないだろうか。もとより、専門書としての自然科学書は、科学研究や技術開発活動を下支えする知的インフラとして、日本の科学技術の発展に多大な寄与をしてきた。わが国が第二次大戦後の廃墟の中から奇跡的に立ち上がり、米国と並ぶ科学技術大国の地位を確保したのも、われわれの先輩たちがいち早く科学技術関連の啓蒙書や学術書の出版を手がけ、その普及・発展につとめてきたからに他ならない。いうなれば自然科学書に代表される専門書出版は、こうした先導的、積極的役割を果たしながら、戦後50余年にわたって、営々と継承され、それを再販制度のシステムが側面から支えてきたといえよう。その基軸ともいうべき再販制度を「独禁法に原則違反」「規制緩和」という理由で、根底から崩してしまうとすれば、大局を見ない施策と言わざるを得ない。

再販制度の必要性

大事なことは、かりに再販制度が廃止されるようなことになれば、専門書業界の存立に関わる新たな問題や困難に直面するということだ。第１に、「定価」が消え、価格競争が優先されるようになると、量販店を中心に売れ筋商品主体の効率的販売が重視されるようになり、専門書はその被害を直接蒙る可能性が大きい。その弊害を回避するためには、専門書の専門店化で対応すればよいとの見方があるが、書店の規模や立地の問題などがあって、簡単に片付く問題ではない。また自然科学系の専門書が今日、最寄りの書店でまだ相当数販売されていることを考えると、単純に専門店化を推進すればよいということでもない。

次に、専門書は固定的な読者がいるから小売価格もそう大きく崩れることはないとの見方があるが、実際には相当の値引き販売が行われ、それに伴って希望小

売価格の上昇が避けられそうにもない、ということである。希望価格が引き上げられ、その価格の「〇〇%引き」といった形で売られるとしたら、これで果たして真の消費者利益につながるのか、という疑問は拭えない。

再販制度として残すべき書籍・雑誌を「コア論」なるキーワードで括ることは本来困難なことであるが、そんな問題も論点の一つになった。専門書は、これまでに繰り返し述べたように再販制度の適用を受ける必要条件、十分条件を最大限に備えているのに対し、世に言う「有害本」のたぐいはその資格なしと見ることもできる。しかし、後者の問題は、むしろ出版界の自浄作用や自己努力によって改善されるべき問題で、再販制度の存廃との関連で論ずるのは適当ではない。コア論のもう一つの問題点は、仮に専門書をその対象にするとしても限定的にセグメントすることが実質的に困難であり、現実性に欠くということである。そのため協会としても、「再販制度を必要とするのはすべての書籍である」という原則に従った。また、この方針を貫くことが、出版界の結束を護り、再販制度の維持につながる、と考えた。

専門書については、きわめて代替性の低い商品ゆえに再販制度を廃止しても一定の部数が確実に販売でき、混乱を招くようなことはないとの見方がある。しかし、長びく出版不況の中で、専門書出版社が等しく苦況に陥っていることを考えると、そんな甘言は言語道断と言わざるを得ない。

弾力運用・流通改善への対応

弾力運用、流通改善への対応は、再販制度存置への道筋の中から生まれた新しい課題といえる。われわれの専門書は、前述のように比較的小部数のものを長期間にわたって安定的に供給していくことが前提になっており、本来、時限再販をはじめとした非再販本化が困難な分野である。しかし、定期的に刊行される年報・年鑑類や陳腐化しやすい出版物の時限再販化は可能だし、一部の書籍については部分再販化があってもよい。いずれにせよ、対読者サービスという視点から考えても何らかの対応があってもよいと思われる。

さらに弾力運用の一環として、東京国際ブックフェアにおける割引販売や謝恩価格本ネット販売フェアへの参加がある。これらへの参加もその効果もまだ限定的なものであるが、この種の対応を積み重ねることにより、再販制度の維持という本来の目的が達成されるならば、その効用はきわめて大きいと言わねばならない。出版業界を揺るがしているポイントカードについては、基本的に「値引き」と解釈し、一部の会員社が過度のポイントを出している書店に対して自粛を求めた。

（志村）

50 周年以後の行事について

1996―1997
平成8年～9年

［平成8年］

7．18

第45回定時総会を日本出版クラブ会館で開催した（出席者　69社　内委任状　26社）。

11．28

創立50周年記念講演会・祝賀会を開催した。

記念講演会　題　目　「戦後50年の工学教育と自然科学書」
　　講　師　西沢潤一先生（前東北大学総長）
　　会　場　日本出版会館
　　参加者　163名
記念祝賀会　会　場　日本出版クラブ会館
　　参加者　147名

祝賀会に三笠宮崇仁親王殿下のご臨席をいただいた。
「自然科学書協会50年史」を発行し「図書カード」と共に配布した。

［平成9年］

1．20

会員集会・新年懇親会を開催した。

議　題　⑴　再販制度問題に関する現状
　　⑵　消費税改正に伴う諸問題
　　⑶　日本複写権センターの動向
参加者　54社　56名
会　場　日本出版クラブ会館

1．27

「勉強会」を開催した。

共　　催　（社）自然科学書協会
　　（社）出版梓会
テ　ー　マ　「消費税」
当協会参加者　47社　78名
会　　場　研究社英語センター

2．28

「学校図書館整備推進会議」に加盟団体として加入した。

5．23

「出版物の再販制度についての基本方針」を理事会において採択し、会員社及び関係機関・団体に送付した。

5．23～24

見学会と視察旅行を実施した。
長野オリンピック主要施設（エムウェーブホワイトリングジャンプ会場等）・北野美術館・東山魁夷館・善光寺
参加者　会員社　18名　関連業者　12名

6．11

STM日本部会主催講演会が開催された。
テーマ　著作物識別子と電子的著作権管理システム
会　場　日本出版会館

7．11

「英文自然科学書目録96～97」を（社）出版文化国際交流会の協力を得て、各々国際図書展に配布した。
マレーシア国際図書展・フィリピンブックフェア
フランクフルト国際図書展・グアダラハラ（メキシコ）国際図書展・ベトナム国際図書展・ニューデリー国際図書展・カイロ国際図書展・ハバナ国際図書展・東京国際図書展

7．17

第46回定時総会を日本出版クラブ会館で開催した（出席者　75社　内委任状　35社）。

11．14

「第11回出版印刷セミナー」を開催した。

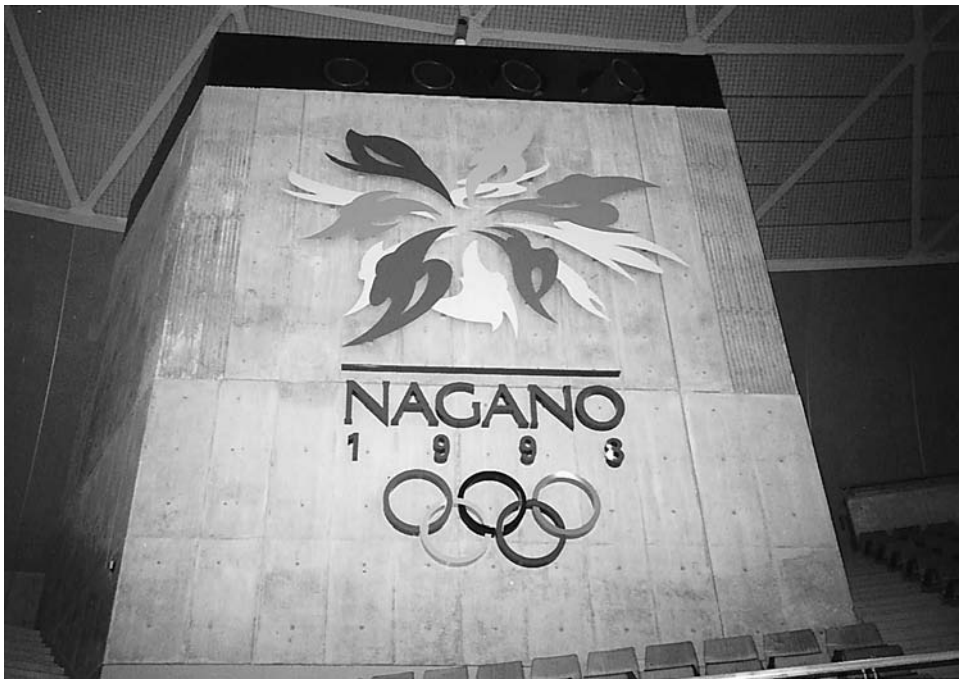
テ　ー　マ　デジタル時代の出版と印刷
主　　催　東京都印刷工業組合出版メディア協議会
協　　賛　（社）自然科学書協会
　　（社）出版梓会
当協会参加者　25社　32名
会　　場　日本出版クラブ会館

11．20

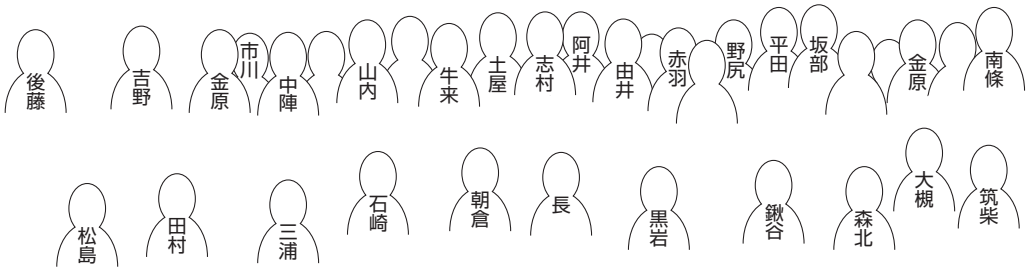
役員選挙方法検討委員会（委員長岡田理事）および会費問題検討委員会（委員長吉野理事）が発足した。

11．27

ジュンク堂・仙台店開店に祝意を表した。
オープニングフェアとして「自然科学書協会展」が催された。



長野オリンピック主要施設見学



1998−1999
平成10年〜11年

［平成10年］

1．19

会員集会・新年懇親会を開催した。

議　題 ⑴ 再販制度問題に関する現状報告
⑵ 日本複写権センターの動向
⑶ 情報システム委員会の報告
⑷ 第4会IPA国際著作権シンポジウムについて

参加者　52社　52名

会　場　日本出版クラブ会館

2．23

再販売価格維持制度に係る出版四団体が「再販実務検討委員会」を発足させた。当協会より志村常務理事・金原常務理事が委員となった。

7．16

第47回定時総会を東京会館で開催した（出席者　75社　内委任状　25社）。

8．28〜9．2

「'98（第7回）北京国際ブックフェア」が開催され当協会は専用ブース（3ブース）を設け自然科学系図書の展示を行った。

主　　催　中国図書進出口総公司
協　　賛　(社)自然科学書協会
当協会出展社　46社　575点
会　　場　北京市・中国国際展覧センター

9．14〜20

「ロシア極東地域日本図書展'98」が開催された。

主　　催　(社)出版文化国際交流会
日本対外文化協会
協　　賛　(社)自然科学書協会
当協会出展社　13社
会　　場　ウラジオストク・極東国立総合大学

9．24

英文自然科学書目録「Catalog of Scientific Publications from Japan with Directory of the Publishers 1998-1999」を刊行した（発行部数　3,000部）。
内、1,500部を(社)出版文化国際交流会の協力を得て、今後開催される国際図書展へ配布すべく発送の依頼を行った。
主な配布先
フランクフルト国際図書展、カイロ国際図書展、東京国際図書展、ワルシャワ国際図書展

10．23

「会員名簿」（'98年版）を発行した（発行部数　350部）。

11．12

「出版・印刷人の集い」が開催された。

主　　催　東京都印刷工業組合出版メディア協議会
協　　賛　(社)自然科学書協会
(社)出版梓会
当協会参加者　22社　37名
会　　場　日本出版クラブ会館

12．4

STM日本部会総会が日本出版クラブ会館で開催された。

12．18

年末会員集会を開催し、会員社代表者並びに各専門委員会委員および関連業者と相互の親睦を図った。

会　場　東京会館

［平成11年］

1．21

会員集会・新年懇親会を開催した。

議　題 ⑴ 再販制度問題の現状報告
⑵ 「東京国際ブックフェア'99」の出展・販売について
⑶ 日本複写権センターの動向と出版者著作権協議会からの複写使用料の配分について

参加者　50名

会　場　日本出版クラブ会館

1．25

「出版者著作権協議会」幹事会において、当協会の幹事を朝倉邦造氏より金原　優氏に変更する旨の届出が

承認された。

3．25

(社)日本複写権センターの総会が開催された。役員改選の結果、当協会からは理事に金原　優氏、及川　清氏が、常任理事に佐藤政次氏が就任した。

5．24

臨時総会を日本出版クラブ会館で開催した（出席者　68社　内委任状　32社)。

5．28

(社)日本複写権センターから出版者著作権協議会を通じて当協会に配分された複写使用料を会員社に分配した。

5．28〜29

見学会と視察旅行（新潟県・六日町方面）を実施し、越後ゆきぐら館、西福寺開山堂、大理石村ロックハート城、薬王園を視察した（参加者　会員社　16名　関連業界　10名)。

7．15

第48回定時総会を東京会館で開催した（出席者　64社　内委任状　18社)。

11．18

当協会に対する再販について公正取引委員会のヒアリングが行われ、朝倉理事長、山本専務理事、志村常務理事、今井理事、山下理事が同委員会に出向いた。

11．19

「第2回出版・印刷人の集い」が開催された。

主　　催　東京都印刷工業組合出版メディア協議会
協　　賛　(社)自然科学書協会
　　(社)出版梓会
当協会参加者　27社　35名
会　　場　日本出版クラブ会館

12．24

STM日本部会総会が日本出版クラブ会館で開催された。

ロシア極東地域日本図書展'98

東京国際ブックフェア

2000―2001
平成 12 年～13 年

［平成 12 年］

1．20

会員集会・新年懇親会を開催した。

議　題　⑴　再販制度問題の現状報告
　　⑵　「東京国際ブックフェア 2000」の出展・販売について
　　⑶　日本複写権センターの動向および「複写問題対策特別分担金」の活用について

参加者　48 名

会　場　日本出版クラブ会館

2．3

(社)出版梓会との共催で研修会を開催した。

演　　題　日本出版販売(株)のこれからの経営戦略

講　　師　菅　徹夫　日本出版販売(株)代表取締役社長

当協会参加者　30 社　32 名

会　　場　日本出版クラブ会館

3．2

「著作権に関する勉強会」を開催した。

講　師　三山裕三弁護士

参加者　40 社　58 名

会　場　日本出版クラブ会館

4．20～23

「東京国際ブックフェア 2000」が開催された。

当協会は「自然科学書フェア」に協賛し、3 ブースを設け、図書の展示・販売・版権売買の斡旋を行った。

当協会出展社　66 社　1,988 点、2,439 部

売 上 部 数　210 部

会　　場　東京ビッグサイト　東展示ホール

5．18

臨時総会を日本出版クラブ会館で開催した（出席者 56 社　内委任状　26 社）。

6．13

「自然科学書協会概要（2000 年度版）」を発行した（350 部）。

7．4

「英文自然科学書目録 2000～2001」を発行した（3,000 部）。

主な配布先

フランクフルト国際図書展・北京国際図書展・ミャンマー日本の本展・東京国際ブックフェア 2001　他

7．19

第 49 回定時総会を日本出版クラブ会館で開催した（出席者　66 社　内委任状　22 社）。

8．29～9．3

北京国際ブックフェア視察旅行（参加者　24 名）。

「第 8 回北京国際ブックフェア」が開催され当協会は 3 ブースを設け展示した。

主　　催　中国図書進出口総公司

会　　場　北京市・中国国際展覧センター

当協会出品社　49 社　539 点出品

11．16

「第 3 回出版・印刷人の集い」が開催された。

主　　催　東京都印刷工業組合出版メディア協議会

協　　賛　(社)自然科学書協会

当協会参加者　28 社　47 名

会　　場　日本出版クラブ会館

［平成 13 年］

1．18

会員集会・新年懇親会を開催した。

報告事項　1）著作・出版権委員会ならびに特別委員会
　　2）税制・再販問題特別委員会
　　3）販売出展委員会

出 席 者　49 名

会　　場　日本出版クラブ会館

3．1

(社)日本複写権センター臨時理事会（12 月 26 日）において、特別許諾条件当該出版物（『白抜き R』）の複写許諾を今後同センターの業務としない旨決定したことに対し、当協会は同センター宛に抗議書を郵送した。

3．26

公正取引委員会は著作物再版制度の取扱いについて「当面同制度を存置することが相当である」との結論を公表した。

4．2

(社)日本複写権センターの『白抜きR』出版物委託解除に伴い会員説明会を開催した。

報告事項　1）日本複写権センターにおける権利処理の経緯について

2）今後の対応策について

会　　場　日本出版クラブ会館

4．19～22

「東京国際ブックフェア2001」に出展した(3ブース)。

出 品 社　71社　出品点数　2,153点

出品部数　2,531点

会　　場　東京ビッグサイト

5．17

予算総会を日本出版クラブ会館で開催した（出席者70社　内委任状　37社)。

7．19

第50回定時総会を日本出版クラブ会館で開催した(出席者　71社　内委任状　28社)。

11．15

第4回出版・印刷人の集いが開催された。

2002―2003
平成 14 年～15 年

［平成 14 年］

1．17

新年会員集会を開催した。

報告事項　1）「台北国際図書展示会」視察旅行の募集について
　　2）TIBF 2002「違法コピー撲滅キャンペーン」特別出展について

出 席 者　45 名

会　　場　日本出版クラブ会館

2．12

事務局の移転（文化産業信用組合・本部）

新住所：〒101-0051 千代田区神田神保町 1-101　神保町 101 ビル

2．19～24

第 10 回台北国際ブックフェアが開催された（協会出展部数　250 部）。

台北国際図書展視察旅行（2．18～2．21）を実施した（参加者　14 名）。

4．12

「英文自然科学書目録 2002～2003」を発行した（2,000 部）。

4．18～21

「2002 東京国際ブックフェア」に出展した（3 ブース）。

会場　東京ビッグサイト

5．16

第 52 期事業年度予算総会を日本出版クラブ会館で開催した（出席者　68 社　内委任状　34 社）。

7．4

日本出版会館にて著作権問題セミナーが開催された（協賛）。

7．18

第 51 回定時総会を日本出版クラブ会館で開催した（出席者　61 社　内委任状　28 社）。

9．4

科学技術振興事業団（JST）宛に複写問題で質問状を郵送した。

内　　容　1）FAX 送信について
　　2）複写業務の外部委託について
　　3）複写業務へ民間との競合について

10．9～14

「第 54 回フランクフルト・ブックフェア」に出展した。

11．14

「第 5 回出版・印刷人の集い」に協賛・参加した。

［平成 15 年］

3．5

科学技術振興事業団（JST）の複写問題に関する質問状に対し、同事業団より FAX 送信についてのみ利用料支払いに応じる旨の回答を得た。

4．3

「e ブック」の研究会を日本出版クラブ会館で開催した。

4．17・24

「違法コピー」の意見広告を経営タイムス・日経産業新聞・日刊工業新聞に掲載した。

4．24～27

「2003 東京国際ブックフェア」に出展した（3 ブース）。

出展社数　68 社　出品点数　2,059 点　出品部数　2,447 部

「違法コピー撲滅キャンペーン」の特別出展を行った（1 ブース）。

会場においてアンケート調査を実施した（総回答数 469 件）。

会場　東京ビッグサイト

4．27

日本複写権センター契約企業（3,000 社）に対し、違法コピー撲滅キャンペーンのパンフレットを送付した。

5．15

第 52 期第 2 回総会を日本出版クラブ会館で開催した（出席者　70 社　内委任状　36 社）。

6．26
STM 日本部会総会が日本出版クラブ会館で開催された。

7．17
第 53 回第 1 回定時総会を日本出版クラブ会館で開催した。

10．7〜13
「第 55 回フランクフルト・ブックフェア」に出版梓会・日本大学出版部協会との協賛で出展した。

11．20
「第 6 回出版・印刷人の集い」が日本出版クラブ会館で開催された（協賛）。

台北国際図書展

2004—2005
平成 16 年～17 年

［平成 16 年］

1．15
新年会員集会を開催した。
出席者　43 名
会　場　日本出版クラブ会館

4．22～25
「2004 東京国際ブックフェア」に出展した(3 ブース)。
会場　東京ビッグサイト

5．14
アマゾンジャパン(株)の書籍販売システムを視察した。

5．20
講演会「21 世紀の科学技術と日本の役割」を開催した。
講　師　文部科学省科学技術・学術政策局長
　　有本建男氏
参加者　48 名

第 53 期第 2 回定時総会を日本出版クラブ会館で開催した。

7．15
講演会「オンライン書店の有効活用」を日本出版クラブ会館にて開催した。
講　師　アマゾンジャパン(株)　バイヤー　土井英司氏
参加者　71 名

第 54 期第 1 回定時総会を日本出版クラブ会館で開催した（出席者　65 社　内委任状　28 社)。

8．31
文化庁へ「著作権法改正に係る要望書」を提出した。

10．6～11
「第 56 回フランクフルト・ブックフェア」に出版梓会・日本大学出版部協会との協賛で出展した。

11．18
「第 7 回出版・印刷人の集い」が日本出版クラブ会館で開催された（協賛)。

［平成 17 年］

1．20
新年会員集会を開催した。
参加者　44 名
会　場　日本出版クラブ会館

2．9
出版梓会と合同で「再販問題研修会」を開催した（参加者　123 名　当協会参加者　42 名)。

2．22
会員説明会「出版社における個人情報保護対策」を日本出版クラブ会館で開催した。
講　師　ひかり総合法律事務所　弁護士　藤原宏高氏
参加者　62 名（43 社）

5．19
第 54 期第 2 回定時総会を日本出版クラブ会館で開催した（出席者　69 社　内委任状　33 社)。

6．21
第 55 期第 1 回定時総会を日本出版クラブ会館で開催した（出席者　63 社　内委任状　24 社)。

7．7～10
「2005 東京国際ブックフェア」に出展した(3 ブース)。
会場　東京ビッグサイト

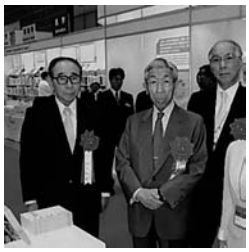
9．1～5
第 12 回北京国際ブックフェア（BIBF 2005）において、当協会の呼びかけに応じた 20 社 123 点の図書を共同ブースに展示した。

10．12～16
第 57 回フランクフルト・ブックフェアが開催された。当協会からは 26 社 48 点の出展参加があった。

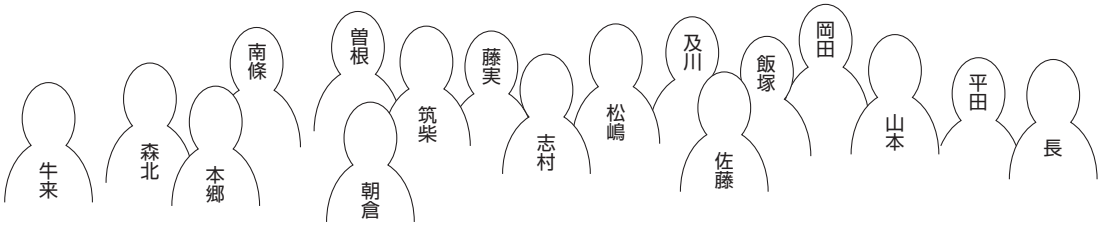
11．17

「第８回出版・印刷人の集い」が日本出版クラブ会館で開催された。

第７回 出版・印刷人の集い



会員説明会
「出版社における個人情報保護対策」



年末会員集会 東京會館

2006
平成 18 年

[平成 18 年]

3．10

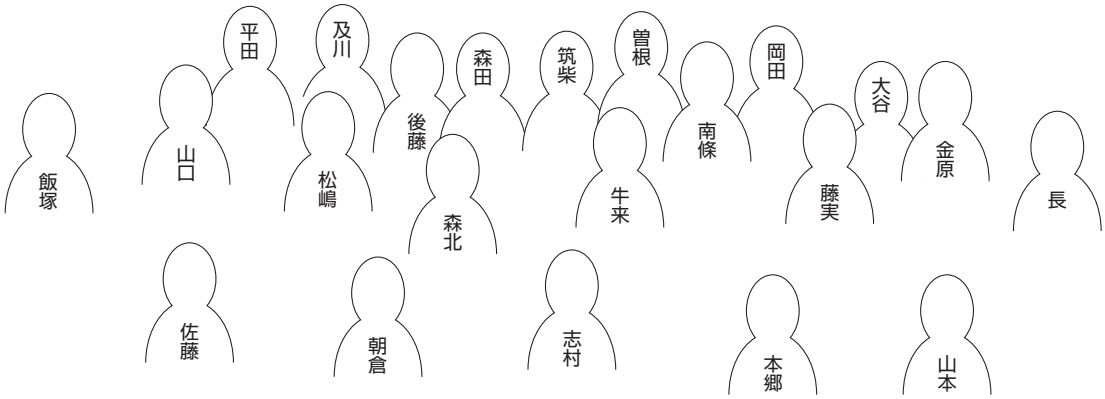
講演会「オンライン書店セブンアンドワイでの売り方」を日本出版クラブ会館で開催した。

講師：セブンアンドワイ(株)商品部部長・磯前史子氏

参加者：44 社　68 名

5．18

第 55 期第 2 回定時総会を日本出版クラブ会館で開催した（出席者　69 社　内委任状　34 社)。



資　　料

資　料

役員就任推移

平成 9 年

理 事 長　朝倉邦造
専務理事　山本桊四郎
常務理事　金原　優、牛来辰巳、及川　清
理　　事　三浦裕士、佐藤政次、岡田吉弘、太田　博、長　祥隆、志村幸雄、吉野達治、阿井國昭、田中久雄、中陣隆夫、坂本　尚、山本　格、森北　肇
監　　事　中川廣一、南條光章、筑紫恒男

平成 10 年

理 事 長　朝倉邦造
専務理事　山本桊四郎
常務理事　金原　優、志村幸雄、牛来辰巳、及川　清
理　　事　三浦裕士、坂口　顯、佐藤政次、岡田吉弘、太田　博、長　祥隆、江面竹彦、吉野達治、阿井國昭、坂本　尚、山本　格、深山恒雄、森北　肇
監　　事　南條光章、筑紫恒雄、田中久雄

平成 11 年

理 事 長　朝倉邦造
専務理事　山本桊四郎
常務理事　金原　優、志村幸雄、牛来辰巳、及川　清
理　　事　三浦裕士、佐藤政次、岡田吉弘、太田　博、長　祥隆、江面竹彦、吉野達治、阿井國昭、坂本　尚、山本　格、深山恒雄、森北　肇
監　　事　南條光章、筑紫恒男、田中久雄

平成 12 年

理 事 長　朝倉邦造
専務理事　山本桊四郎
常務理事　金原　優、佐藤政次、長　祥隆、志村幸雄
理　　事　今井康之、岡田吉弘、南條光章、筑紫恒男、牛来辰巳、江面竹彦、吉野達治、山下　正、本郷允彦、坂本　尚、松嶋　徹、森北　肇、及川　清
監　　事　阿井國昭、山本　格

平成 13 年

理 事 長　朝倉邦造
専務理事　山本桊四郎
常務理事　金原　優、佐藤政次、長　祥隆、志村幸雄
理　　事　今井康之、岡田吉弘、南條光章、筑紫恒男、牛来辰巳、江面竹彦、吉野達治、山下　正、本郷允彦、坂本　尚、松嶋　徹、森北　肇、及川　清
監　　事　阿井國昭、山本　格

平成 14 年

理 事 長　朝倉邦造

専務理事　志村幸雄

常務理事　金原　優、佐藤政次、筑紫恒男、山本　格

理　　事　南條光章、長　祥隆、牛来辰巳、江面竹彦、阿井國昭、山本桊四郎、藤実彰一、田中久米四郎、平田　直、本郷允彦、松嶋　徹、森北　肇、及川　清

監　　事　岡田吉弘、坂本　尚、大谷健美

平成 15 年

理 事 長　志村幸雄

専務理事　金原　優

常務理事　佐藤政次、筑紫恒男、牛来辰巳、山本　格

理　　事　朝倉邦造、南條光章、長　祥隆、阿井國昭、山本桊四郎、藤実彰一、田中久米四郎、平田　直、本郷允彦、松嶋　徹、森北　肇、及川　清

監　　事　岡田吉弘、坂本　尚、大谷健美

平成 16 年

理 事 長　志村幸雄

専務理事　本郷允彦

常務理事　佐藤政次、筑紫恒男、牛来辰巳、山本　格

理　　事　朝倉邦造、金原　優、宮部信明、曽根良介、南條光章、長　祥隆、飯塚尚彦、山本桊四郎、藤実彰一、渡辺　勲、平田　直、松嶋　徹、森北　肇、及川　清

監　　事　岡田吉弘、柴山和夫、大谷健美

平成 17 年

理 事 長　志村幸雄

専務理事　本郷允彦

常務理事　佐藤政次、筑紫恒男、牛来辰巳、山本　格

理　　事　朝倉邦造、金原　優、宮部信明、曽根良介、南條光章、長　祥隆、飯塚尚彦、藤実彰一、平田　直、松嶋　徹、森北　肇、及川　清

監　　事　岡田吉弘、大谷健美

平成18年度役員

理事長	工業調査会	志村幸雄
専務理事	南江堂	本郷允彦
常務理事	共立出版	南條光章
同	建帛社	筑紫恒男
同	コロナ社	牛来辰巳
同	培風館	山本　格
理事	朝倉書店	朝倉邦造
同	医学書院	金原　優
同	岩波書店	宮部信明
同	オーム社	佐藤政次
同	化学同人	曽根良介
同	技報堂出版	長　祥隆
同	産業図書	飯塚尚彦
同	彰国社	後藤　武
同	診断と治療社	藤実彰一
同	東京大学出版会	山口雅己
同	中山書店	平田　直
同	丸善	松嶋　徹
同	森北出版	森北　肇
同	養賢堂	及川　清
監事	海文堂出版	岡田吉弘
同	緑書房	森田　猛
同	文化産業信用組合	大谷健美

代表者変更

17. 7.13
株式会社日本臨牀社
旧代表者　香西義雄
新代表者　中川勝文（代表取締役社長）

7.22
株式会社恒星社厚生閣
旧代表者　佐竹久男
新代表者　片岡一成（代表取締役社長）

11.30
三共出版株式会社
旧代表者　萩原幸子
新代表者　秀島　功（代表取締役社長）

18. 1.25
医歯薬出版株式会社
旧代表者　藤田勝治
新代表者　大畑秀穂（代表取締役社長）

2.14
株式会社へるす出版
旧代表者　長谷川恒夫
新代表者　岩井壽夫（代表取締役社長）

3.27
株式会社日刊工業新聞社
旧代表者　菅野亮一
新代表者　渡部明浩（出版局長）

4.20
東海大学出版会
旧代表者　瀬水澄夫
新代表者　高橋守人（出版部長）

現在の会員名簿

現在の会員名簿［72 社］

朝倉書店	朝倉　邦造	〒162-8707	東京都新宿区新小川町 6-29	TEL 3260-0141
家の光協会	池端　昭夫	〒162-8448	東京都新宿区市谷船河原町 11	TEL 3266-9000
医学書院	金原　優	〒113-8719	東京都文京区本郷 5-24-3	TEL 3817-5610
医歯薬出版	大畑　秀穂	〒113-8612	東京都文京区本駒込 1-7-10	TEL 5395-7600
井上書院	関谷　勉	〒113-0034	東京都文京区湯島 2-17-15 斎藤ビル	TEL 5689-5481
医薬ジャーナル社	沼田　稔	〒541-0047	大阪市中央区淡路町 3-1-5 淡路町ビル 21	TEL 06-6202-7280
岩波書店	山口　昭男	〒101-8002	東京都千代田区一ツ橋 2-5-5	TEL 5210-4000
内田老鶴圃	内田　悟	〒112-0012	東京都文京区大塚 3-34-3	TEL 3945-6781
オーム社	佐藤　政次	〒101-8460	東京都千代田区神田錦町 3-1	TEL 3233-0641
海文堂出版	岡田　吉弘	〒112-0005	東京都文京区水道 2-5-4	TEL 3815-3291
科学新聞社	池田冨士太	〒105-0013	東京都港区浜松町 1-8-1	TEL 3434-3741
化学同人	曽根　良介	〒600-8074	京都市下京区仏光寺通柳馬場西入	TEL 075-352-3373
学窓社	田中　敏昌	〒113-0024	東京都文京区西片 2-16-28	TEL 3818-8701
鹿島出版会	鹿島　光一	〒107-8345	東京都港区赤坂 6-5-13	TEL 5561-2550
学会出版センター	吉田　眞次	〒113-0033	東京都文京区本郷 6-2-10	TEL 3814-2001
金原出版	川井　弘光	〒113-8687	東京都文京区湯島 2-31-14	TEL 3811-7184
協同医書出版社	木下　攝	〒113-0033	東京都文京区本郷 3-21-10 浅沼第 2 ビル 4 階	TEL 3818-2361
共立出版	南條　光章	〒112-8700	東京都文京区小日向 4-6-19	TEL 3947-2511
杏林書院	太田　博	〒113-0034	東京都文京区湯島 4-2-1	TEL 3811-4887
技報堂出版	長　祥隆	〒101-0051	東京都千代田区神保町 1-2-5 和栗ハトヤビル	TEL 5217-0881
金芳堂	柴田　勝祐	〒606-8425	京都市左京区鹿ケ谷西寺ノ前町 34	TEL 075-751-1111
建帛社	筑紫　恒男	〒112-0011	東京都文京区千石 4-2-15	TEL 3944-2611
工業調査会	志村　幸雄	〒113-8466	東京都文京区本郷 2-14-7	TEL 3817-4701
光生館	中川　廣一	〒112-0012	東京都文京区大塚 2-1-17	TEL 3943-3335
恒星社厚生閣	片岡　一成	〒160-0008	東京都新宿区三栄町 8	TEL 3359-7371
講談社サイエンティフィク	佐々木良輔	〒162-0814	東京都新宿区新小川町 9-25 日商ビル 3 階	TEL 3235-3701
克誠堂出版	今井　良	〒113-0033	東京都文京区本郷 3-23-5-202	TEL 3811-0995
コロナ社	牛来　辰巳	〒112-0011	東京都文京区千石 4-46-10	TEL 3941-3131
サイエンス社	森平　勇三	〒151-0051	東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-3-25	TEL 5474-8500
相模書房	佐藤　弘	〒104-0061	東京都中央区銀座 2-11-6 竹田ビル	TEL 3542-0660
山海堂	松元　龍治	〒113-8430	東京都文京区本郷 5-5-18	TEL 3816-1617
三共出版	秀島　功	〒101-0051	東京都千代田区神田神保町 3-2	TEL 3264-5711
産業図書	飯塚　尚彦	〒102-0072	東京都千代田区飯田橋 2-11-3	TEL 3261-7821
シーエムシー出版	島　健太郎	〒101-0047	東京都千代田区内神田 1-13-1	TEL 3293-2061
実教出版	島根　正幸	〒102-8377	東京都千代田区五番町 5	TEL 3238-7700
裳華房	吉野　達治	〒102-0081	東京都千代田区四番町 8-1	TEL 3262-9166
昭晃堂	阿井　國昭	〒162-0805	東京都新宿区矢来町 48	TEL 3269-3449
彰国社	後藤　武	〒160-0002	東京都新宿区坂町 25	TEL 3359-3231
新興医学出版社	服部　秀夫	〒113-0033	東京都文京区本郷 6-26-8	TEL 3816-2853
診断と治療社	藤実　彰一	〒100-0014	東京都千代田区永田町 2-14-2 山王グランドビル 4F	TEL 3580-2770
誠文堂新光社	小川　雄一	〒113-0033	東京都文京区本郷 3-3-11	TEL 5800-5780

総合医学社	渡辺　嘉之	〒101-0061	東京都千代田区三崎町 1-1-4	TEL 3219-2920
第一出版	石川　秀次	〒101-0051	東京都千代田区神田神保町 1-39	TEL 3291-4576
地球社	戸田　学	〒107-0052	東京都港区赤坂 4-3-5	TEL 3585-0087
地人書館	上條　宰	〒162-0835	東京都新宿区中町 15	TEL 3235-4422
中外医学社	青木　滋	〒162-0805	東京都新宿区矢来町 62	TEL 3268-2701
電気書院	田中久米四郎	〒151-0063	東京都渋谷区富ケ谷 2-2-17 電気書院ビル	TEL 3481-5101
東海大学出版会	高橋　守人	〒257-0003	神奈川県秦野市南矢名3-10-35 東海大学同窓会館内	TEL 0463-79-3921
東京大学出版会	山口　雅己	〒113-8654	東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学構内	TEL 3811-8814
同文書院	宇野　文博	〒112-0002	東京都文京区小石川 5-24-3	TEL 3812-7777
永井書店	松浦　三男	〒553-0003	大阪市福島区福島 8-21-15	TEL 06-6452-1881
中山書店	平田　直	〒113-8666	東京都文京区白山 1-25-14	TEL 3813-1100
南江堂	本郷　允彦	〒113-8410	東京都文京区本郷 3-42-6	TEL 3811-7140
南山堂	鈴木　肇	〒113-0034	東京都文京区湯島 4-1-11	TEL 5689-7868
日刊工業新聞社	渡部　明浩	〒103-8548	東京都中央区日本橋小網町 14-1	TEL 5644-7410
日本医事新報社	梅澤　信子	〒101-8718	東京都千代田区神田駿河台 2-9	TEL 3292-1551
日本工業出版	小林　大作	〒113-8610	東京都文京区本駒込 6-3-26	TEL 3944-1181
日本臨牀社	中川　勝文	〒541-0045	大阪市中央区道修町 2-3-8	TEL 06-6204-2381
農山漁村文化協会	坂本　尚	〒107-8668	東京都港区赤坂 7-6-1	TEL 3585-1141
博友社	大橋　一弘	〒162-0824	東京都新宿区揚場町 2-27	TEL 3268-8271
培風館	山本　格	〒102-8260	東京都千代田区九段南 4-3-12	TEL 3262-5256
廣川書店	廣川　節男	〒113-0033	東京都文京区本郷 3-27-14	TEL 3815-3651
文永堂出版	永井　富久	〒113-0033	東京都文京区本郷 2-27-3	TEL 3814-3321
文光堂	浅井　宏祐	〒113-0033	東京都文京区本郷 7-2-7	TEL 3813-5415
へるす出版	岩井　壽夫	〒164-0001	東京都中野区中野 2-2-3	TEL 3384-8035
北隆館	福田　久子	〒108-0074	東京都港区高輪 3-8-14	TEL 5449-4591
丸善	松嶋　徹	〒103-8245	東京都中央区日本橋 2-3-10	TEL 3272-0521
緑書房	森田　猛	〒101-0054	東京都千代田区神田錦町 3-21	TEL 5281-8200
メディカル・サイエンス・インターナショナル	若松　博	〒113-0033	東京都文京区本郷 1-28-36 鳳明ビル 2Ｆ	TEL 5804-6050
森北出版	森北　肇	〒102-0071	東京都千代田区富士見 1-4-11	TEL 3265-8341
養賢堂	及川　清	〒113-0033	東京都文京区本郷 5-30-15	TEL 3814-0911
理工図書	柴山斐呂子	〒102-0071	東京都千代田区一番町 27-2	TEL 3230-0221

自然科学書協会 60 周年記念史特別委員会

委員長：山　本　　格　（培　風　館）
委　員：宮　部　信　明　（岩　波　書　店）
委　員：曽　根　良　介　（化　学　同　人）
委　員：南　條　光　章　（共　立　出　版）
委　員：飯　塚　尚　彦　（産　業　図　書）
委　員：山　口　雅　己　（東京大学出版会）

自然科学書協会 60 年史

（非売品）

印　刷　　2006 年 10 月 25 日
発　行　　2006 年 11 月 8 日

編　集　　自然科学書協会 60 周年記念史特別委員会

発　行　　社団法人自然科学書協会
Ⓒ NSPA
東京都千代田区神田神保町 1-101
神保町 101 ビル（〒101-0051）
文化産業信用組合内
電話 03-3292-8281

編集委託・新日本編集企画
印　　刷・新日本印刷株式会社
製　　本・同和製本